

思いやりが広がる社会にするために

阿南中学校 三年

伊藤 梨恋

(敬称略)

今、日本では高齢の方が増えており、駅の階段などで、辛そうにしているお年寄りに出会うことがあります。しかし、見て見ぬふりをする人や「時間がかかるから迷惑だ」と思ってしまう人もいて、それは少し寂しいことだと感じます。私たちもいつかは歳をとります。だからこそ、今できる「思いやり」の行動が大切だと思うのです。席をゆずる、ゆっくり話しかける、しっかりと耳を傾ける、そんな小さなことが相手の心をあたたためるのだと思います。

私の近所にも、足が少しずつ不自由になっていいるおばあちゃんがいて、いつも気にかけています。笑顔で「こんにちは」と声をかけ、その表情や声のトーンから体調や気分をそっと感じとるようにしています。実は、私の祖母はすでに亡くなってしまいました。とても大好きだったからこそ、今すれ違ってお年寄りにも優しい気持ちを持ちたいと思うのです。「大切な人を大切にすること」その心を出会った人たちにも向けていけたらと思っています。最近「祖父と一緒に買い物に行くことが多く、祖父は「私と買い物に行くのが一番楽しみだよ」と言ってくれました。その言葉を聞いたとき、胸がじんわりと温かくなりとてもうれしくなりました。祖父は元気ですが、歩くのがしんどそうな時もあります。けれど、高齢者用の駐車スペースに車をとめずに一般の駐車スペースにとめています。高齢者であっても、高齢者用の駐車スペースを遠慮して使わない方が多く、その人たちの優しさや心を打たれ、私も少しでも支えていきたいという思いが強まりました。買い物中はカートを押したり、重い荷物を持つたりして少しでも祖父が楽に過ごせるよう心がけています。帰り道には昔話を聞いたり、笑い合ったりする時間もかけがえない宝物です。これからも祖父との時間を大切に、感謝の気持ちを忘れず、おじいちゃん孝行をしていきたいです。祖父と過ごす時間の中で、私はたくさんのことを学んでいます。それは人生の知恵だけでなく人と人との関わりの温かさや、相手を思いやる心の大切さです。その思いを、これから先も人との関わりの中で育てていきたいです。

高齢の方はただ助けられる存在ではなく、私たちと共に社会を築く仲間です。「大丈夫ですか？」の一言や、温かいあいさつが誰かの心を明るくすることもあります。エレベーターのボタンを押したり、買い物かごを手

渡したり、そんな小さな行動の積み重ねが、高齢の方の安心や笑顔につながっていると思います。道に迷っていそうな方に声をかけたり、重そうな荷物を一緒に運んだりすることも、立派な思いやりです。地域の中でもっと声を掛け合い、思いやりが広がる社会をめざして私にできることから行動して行きたいです。まだそうした場面には出会ったことはありませんが、日常の中で周囲をよく見て、もし困っている人がいたら自分から動けるようになりたいです。思いやりの心もち続け、小さな親切を当たり前に出来る人でありたいと思います。